

2022

春号

まつさか歴史文化かわら版

No.13



金閣閣春図（部分）川口呉川画（長谷川治郎兵衛家旧蔵）

日も長くなって風も暖かくなり、松阪の景色もすっかり春めいて心が躍る季節がやってきました。

とはいえ社会は、まだまだ新型コロナウイルスの禍から抜け切れていないなど、手放しで喜べない状況にありますが、この春は私たちNPO法人松阪歴史文化舎にとって、市の歴史文化施設の管理運営のお手伝いをはじめて3年が経過したという節目のときでもあります。

今後も、市の貴重な文化財を保護しつつ、これらを有効に活用することによって、人々の交流を生み出し、郷土への誇りが感じられる「文化の香り高い都市まつさか」の実現に少しでもお役にたてればと思っています。

今回は、節目の年を記念してページを倍増してみなさまにお届けします。



法人設立5年目を迎えて

松阪歴史文化舎は、旧長谷川治郎兵衛家の資料調査に携わったメンバーが中心となって、平成30年2月に設立した特定非営利活動法人です。設立の趣旨は、松阪固有の歴史的文化遺産を掘り起こし、次代に継承する新たな市民文化の創出—「温故創新」を目指すものです。以来、会員や市民の皆様のご賛同とご支援を賜りながら、松阪学入門講座を皮切りに本格的な活動をスタートしました。

おりしもその直後、松阪市は旧長谷川治郎兵衛家、旧小津清左衛門家、原田二郎旧宅の3文化財施設を指定管理者制度で運営することになり、当舎は平成31年4月から3年の期間でそのお手伝いをはじめ、初年度の入館者は約3万8千人を数えました。

この3か年の間は、コロナ禍において施設を休館した時期もあり入館者がにわかに減少し、また講座やイベントも中止せざるを得ないこともありました。会員の皆様からの激励や職員の頑張りにより乗り越えることができました。

結果、文化財指定された建物群や庭園の保存管理はもとより、資料館施設として年間12回の企画展の開催、収蔵資料の整理、資料閲覧や写真撮影等のレファレンス業務とともに、施設の特性を活かして独自企画の歴史講座や体験学習会・史跡巡り、雅楽や邦楽のミニコンサートとともに、他の市民活動団体等との協働で市民大茶会や子ども生け花教室・子ども茶道教室、アート作品展等を実施しました。

設立5年目を迎え、当舎は本年4月から再び3文化財施設の運営に携わることになりました。今後も変わらない熱意をもって、そして何より楽しみながら、江戸時代に開華した「商人文化」の精神を背景に、松阪らしさ溢れる市民文化の創出を市民の皆様、会員の皆様とともに実現していきたいと存じます。

特定非営利活動法人 松阪歴史文化舎理事長 門 暉 代 司



特別寄稿 松阪歴史文化舎に期待するもの

元三重中京大学教授 村林 守 (津市在住)

松阪は、不思議な魅力をもったまちだ。駅から市役所に向かう。高齢の私でも歩くのに苦は感じないし、職人町や魚町を経由していくと、楽しさすら感じる。

蒲生氏郷が城下町をつくった、その町割りが残っているからだ気づいたのは、だいぶ後になってからだ。歩くのに合わせてつくられたまち、それが松阪の魅力の根本にあった。駅からほど近くに肉屋さん、八百屋さん、荒物屋さんなど生活を支える商店が備わっているのも、三重県のほかのまちには見られない魅力だが、そのお店の間に流れる水路は氏郷が都市計画した「背割下水」だ。職人町を歩くと、立派な構えのお寺さんが並んでいるが、氏郷が城下の周辺に寺院を配置したなごりだ。

このように松阪の人びとの日々の暮らしは、400年以上を遡る歴史と融合して、今に生きている。松阪の魅力の根底には、歴史文化と一体となったこのまちの生きざまがある。

長谷川邸には最近まで豪商の暮らしがあった。同心町の横垣は暮らしの中で守られている。タイムスリップするというよりは、400年の歴史を今の姿に体現している魅力だ。この松阪の魅力を支えている文化は松阪だけのものではないが、それを守ることは松阪市民にしかできない。それを志す方々が、数年前にNPOをつくられた。

役割は大きく二つ、文化を守ることと、市民や来訪者に文化を伝えることだと思う。文化財からみれば「保存と活用」になるのだろうが、やり方によっては矛盾してしまう。使えば傷むのが当たり前だが、使わないのなら保存の意味はない。それを両立して、きちっと保存されているから楽しめるし、みんなが大事に思うから良好な状態が保たれている。これは、誰にでもできることではない。

文化の値打ちがわかっていて、どうすれば良好に保存できるか知っている人。そのような人たちが市民の先頭に立ち、市民は、一人ひとりが松阪の文化に深い愛着をもって大事にしている。松阪歴史文化舎の存在によって、そんな理想に松阪は、一歩も二歩も近づいた。

～ワタを種から育ててみませんか～

旧長谷川治郎兵衛家の庭で育てた綿の種を来訪のみなさまに配布いたします。秋にはかわいいコットンボールが開きます。

- ・配布期間 令和4年4月1日(金)～ ※なくなり次第終了します
- ・配布場所 旧長谷川治郎兵衛家、旧小津清左衛門家、原田二郎旧宅



この3年間の主なできごと



2019年度

- 4月 ・ 指定管理開始、記念式典、旧長谷川治郎兵衛家オープン（5日）
- 5月 ・ 皇風煎茶禮式三重全国大会
- 6月 ・ 松阪伝統文化茶道・華道子ども教室開始
- 8月 ・ 藍のたたき染め体験（協力ゆうづる会共催）
- 9月 ・ 長谷川家古文書入門講座開始（全5回、～1月）
- ・ 飯南高校ふるまい抹茶ラテアート（飯南高校美術クラブ）
- 10月 ・ 「火用心」札木版刷り体験講座
- 11月 ・ 氏郷市民大茶会（蒲生氏郷公顕彰会、松阪市茶道協会との共催）
- ・ ミニコンサート「秋の夜長の雅楽の調べ」
- 12月 ・ 松阪市茶道協会発会記念茶会（共催事業）
- 2月 ・ 年間パスポート販売開始
- ・ 特別展「長谷川家のお雛さまと松阪のお雛さま」（～3月）

2020年度

- 4月 ・ 一周年記念綿の種配布（以後毎年）
- ・ コロナウイルス感染防止のため休館（18日～5月7日）
- 8月 ・ 旧小津清左衛門家に小津本家から「観応二年銘四角型石灯」の寄贈を受ける
- ・ 藍のたたき染め体験（協力ゆうづる会）
- 9月 ・ 城下町「松阪」発見講座開催（全4回、～1月）
- ・ 松阪学入門講座開催（全6回 ～2月）
- 10月 ・ 全国町並み保存連盟で松阪歴史文化舎の取組発表（三重大学）
- 11月 ・ 「火用心」札木版刷り体験講座
- ・ 伊字九筆「絹本淡彩 離合山水図」（国重要文化財）のレプリカ作成
- 12月 ・ 松阪スタンプラリー
- 1月 ・ 手作り甲冑展（～2月）
- 2月 ・ 特別展「ちょっと昔のお雛さま」（～3月）

2021年度

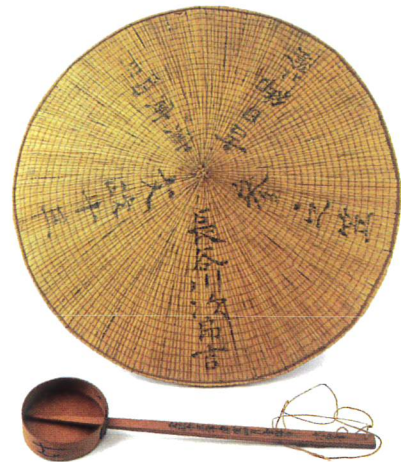
- 4月 ・ 小津安二郎映画看板展
- ・ 東京オリンピック聖火ランナーが旧長谷川家と旧小津家の前を走る
- 5月 ・ 小津安二郎映画看板展に伴い映画看板の制作の技法・デッサン講座
- 7月 ・ 藍のたたき染め体験（協力ゆうづる会）
- ・ 手作り甲冑体験（松阪の街歩き：甲冑愛好会共催 ～11月）
- 8月 ・ コロナウイルス感染防止のため休館（28日～9月30日）
- 11月 ・ 3施設が「第1回松阪カルチャーストリート」のメイン会場となる
- ・ ミニコンサート「錦秋の名月に聴く和の調べ」
- ・ 旧長谷川治郎兵衛家庭園ライトアップ
- ・ 三井高利生誕400年イベント「ちびっ子商人塾」始まる
- 2月 ・ 特別展「ちょっと昔のお雛さま」（～3月）

今回の展示のみどころ！



旧長谷川治郎兵衛家 長谷川家と旅

令和4年3月16日(水)～6月12日(日)



菅笠と柄杓〔文政13年(1830)〕
お蔭参りの際に、実際に10歳の次郎吉(9代元熙幼名)が身に着けたもの。

江戸時代より盛んに行なわれた庶民の旅は、明治以降も交通の発達などにより、ますます普及していきました。もちろん、長谷川家の人々も例外でなく旅を楽しみました。

本展では、9代当主元熙が文政13年(1830)のお蔭参りの際に身に着けた菅笠と柄杓や、長谷川家の人々が旅の道中で書いた記録及び携帯品、観光案内書などの出版物を通して、当時の旅の様子をご紹介します。



旧小津清左衛門家

小津東家の遊芸

令和4年4月5日(火)～7月10日(日)



白椿図〔明治期〕
鹿吉が描いた白椿図。絵画の他、茶道にも秀でていた。

小津東家は、江戸店持ちの豪商 小津清左衛門家当主 長柱が、長谷川治郎兵衛家の分家六郎次家の益吉を娘 隆の婿に迎えて独立させた分家です。初代益吉は東隣、2代益吉の長男・鹿吉は竹香と号し、それぞれ俳句や絵画、茶の湯をたしなみました。本展では、小津東家に残された古記録や生活道具を通して、小津東家当主の遊芸をご紹介します。

お知らせ

松阪もめん秀作展 ー松阪もめん手織り伝承グループ「ゆうづる会」40年の軌跡ー

原田二郎旧宅 令和4年4月14日(木)～5月8日(日)

松阪市文化財センターで4月21日から28日に開催される松阪もめん手織り伝承グループ「ゆうづる会」40周年記念作品展のサブイベントとして秀作展と糸紡ぎ講座を開催します。

・糸紡ぎ講座 参加料無料 令和4年4月30日(土)

午前の部(10:00～11:30) 午後の部(13:00～14:30)

定員 各5名*申し込み順 お問い合わせは原田二郎旧宅まで(Phone.0598-23-1656)



原田二郎旧宅

近代松阪の先賢 土居光華

令和4年4月19日(火)～8月14日(日)

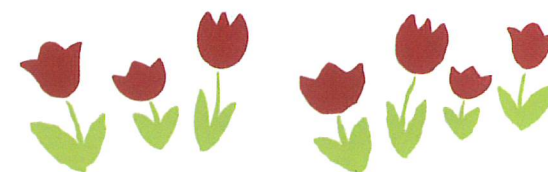


土居光華(1847～1918)は、淡路国三原郡土井村(兵庫県南あわじ市)に生まれ、号を淡山と称し、自由民権運動家、政治家、漢学者、文筆家としても知られています。

明治20年(1887)には、飯高・飯野・多気郡長に就任し、辞職後は、衆議院議員(三重県第4区)となりました。晩年は松阪市殿町に住み、本居宣長の山室山奥墓の保存活動を展開するなど、松阪の発展に尽力した人物です。本展では、昨年12月に寄贈された光華の遺品や遺墨、中央政財界の要人たちが光華へ宛てた書状などの寄贈品を中心にご紹介します。



衆議院議員記章〔明治期〕



～ ちょっと抹茶はしかがですか ～

旧長谷川治郎兵衛家では、良質の茶葉をつかった美味しい抹茶を提供しています。

歴史ある静かな和室で飲む抹茶は身体の疲れを癒やしほっと一息をつくのうってつけ

ご訪問の思い出に暖かい一杯をご賞味あれ!

※日曜日は、松阪茶道協会の方による呈茶を行っています。



開館3周年記念図録「旧長谷川治郎兵衛家」を発売しました!

旧長谷川治郎兵衛家開館3周年記念事業として作業を進めていた図録がついに完成しました。

内容は旧長谷川家所蔵資料や国重要文化財の建造物群、年中行事などについて写真編と解説編の2部構成となっています。

◆A4判、118頁、価格2,000円

◆主な内容◆

○写真編(カラー78頁)

書画類、民具類、古文書、書籍類、建物群と庭園、四季折々の風景

○解説編(モノクロ30頁)

長谷川家のあゆみ、長谷川家の建築・庭園と生活文化、長谷川家資料の概要、長谷川家の年中行事と祝い事など



出版物から見る旅の姿 —江戸から明治—

江戸時代、庶民による寺社参詣や湯治などの旅が盛んに行われるようになると、旅路の宿駅・距離・駄賃・名所旧跡などが記された案内書が盛んに刊行されます。その一つが、名所や寺社などを挿図入りで紹介した案内書「名所図会」です。寛政9年（1797）に刊行された『伊勢参宮名所図会』は伊勢神宮へ参詣する道中の名所を紹介しています。明星（多気郡明和町）の挿図には、街道沿いに、徒歩や駕籠に乗って伊勢神宮へ向う参宮客で賑わう様子が描かれており、江戸時代の旅人の姿がよく分かります。

明治になると旅の姿も変化します。江戸時代の旅は、徒歩による移動が中心でしたが、汽車などといった新たな交通機関の登場により、短時日のうちに、より遠くへの旅行が可能になりました。明治44年（1911）に刊行された雑誌『婦人世界』正月号の付録「家族旅行日本名所双六」は国内の家族旅行をテーマとした双六で、汽車や気船などといった新たな交通機関がマスに描かれており、旅の交通手段の変化がうかがえます。

江戸時代以降、盛んに刊行された旅関連の出版物からは、それぞれの時代の旅の姿を知ることができます。現在でも、観光パンフレットや旅の案内書などが書店に多く並んでいます。時代を追うごとに旅の姿は多様化していきませんが、今も昔も旅に



【『伊勢参宮名所図会』明星の挿図】



【家族旅行日本名所双六】



【双六のマスに描かれた汽車】

対する関心の強さは変わっていないように見受けられます。

今回紹介した資料の品々は、旧長谷川治郎兵衛家の企画展「長谷川家と旅」（令和4年3月16日～6月12日）で展示しています。ぜひご来館ください。（扇野）

歴史文化3施設のご案内

【開館時間】 9:00～17:00

（16:30までにご入館ください）

【休館】 水曜日（祝日の場合は翌平日）
／年末・年始

※休館の曜日が4月1日から水曜日に
変わっていますので、ご注意下さい。

- ◆旧長谷川治郎兵衛家
Phone: 0598-21-8600
- ◆旧小津清左衛門家
Phone: 0598-21-4331
- ◆原田二郎旧宅
Phone: 0598-23-1656

発行 NPO法人松阪歴史文化舎

〒515-0082 松阪市魚町1653 Phone: 0598-21-8600

E-mail info@rekishibunkasha.onmicrosoft.com

HP https://matsusaka-rekibun.com/

